海外レポート	**インド　ベンガルール**

海外ビジネスサポーター　田中　啓介

在インド歴 12 年超。米国公認会計士（試験全科目合格）。税理士法人およびナスダック上場米系企業での経験を経て、2012 年に南インドのチェンナイに移住。現地で会計事務所を母体とするインド進出支援コンサルティング会社を共同創業。中堅・中小企業向けに EOR を活用したリスク・コストを抑えたインド進出方法を提案している。現在はベンガルール在住。

「インド大手財閥の実態に迫る」

＜インドの大手財閥と言えば？＞

日本の財閥と言えば住友・三井・三菱、世界の財閥と言えば、ロスチャイルド・ロックフェラー・モルガンなどが思い浮かびますが、インドはなんといってもタタグループです。タタグループは自動車から鉄鋼、IT サービス、消費財、外食チェーンの運営まで、10 業種・100 カ国以上で事業展開をしていて、100 万人以上の従業員を抱えるインドが誇る一大財閥です。

＜タタ財閥の成り立ちと成長の経緯＞

タタグループは、1868 年にジャムシェトジー・タタ氏が綿貿易会社として創業しました。創業以来 150 年以上にわたって事業を成長させ続けていて、ジャムシェトジー・タタは「インド産業の父」とも言われています。インド経済自由化が始まった 1991 年に、グループ統括会社のタタ・サンズの会長に就任した親日家のラタン・タタ氏は、イギリスの高級車ブランド、ジャガー・ランドローバーなどの大型買収を成功させて、タタグループを世界的なグローバル企業へと押し上げた手腕や、当時ワンラックカーと呼ばれた 10 万ルピー（約 18 万円）の車、この斬新な低価格車を開発するなど、革新的なアイデアにも注目が集まった人物です。

＜タタ財閥が持つ事業やサービスについて＞

現在、タタグループは、右記の図にあるような事業領域においてさまざまなサービスやブランド商品、製品を保有していて、私たちの身近なところでいくと、自動車のタタ・モーターやジャガー・ランドローバー、航空のエア・インディア、ホテル事業の Taj や Vivanta、小売で時計ブランドの Titan（タイタン）やジュエリーブランドの Tanishq（タニシェク）、コーヒーチェーンのスターバックスなどがあります。2B 向けの事業においても、鉄鋼のタタ・スチールや IT サービスのタタ・コンサルタンシーサービス（TCS）、電力のタタ・パワーなどを中心に幅広い事業を展開しています。

＜タタ財閥の一族の宗教と後継者問題＞

タタグループの一族は、インドでは一般的にペルシャ人を意味する「パールシー」と呼ばれるゾロアスター教徒です。有名なゾロアスター教徒と言えばイギリスのロックバンド「クイーン」のボーカル、フレディーマーキュリーもパールシーのひとりで、幼少期をムンバイで過ごしています。このゾロアスター教徒は年々減少しています。というのも、父親がゾロアスター教でないと信徒になれないので、女性が異教徒と結婚をすると信仰を捨てなければならないためです。ラタン・タタ氏は生涯独身を貫ぬき、そもそも子供がいなかったので後継者選びにはかなり苦労をしました。ゾロアスター教徒でかつ親族という限られた選択肢の中から、異母兄弟の妻の兄弟を選んで、2012 年から会長職を引き継ぎましたが、残念ながら 2016 年に解任され、2017 年から新たに会長職についたのは、タタグループの 150 年近い歴史において初めてゾロアスター教徒でもなく親族でもないナタラジャン・チャンドラセカラン氏です。彼は、タタグループの IT サービス TCS で CEO を務めた経験があるという実力者ですが、歴史の転換点を迎えているタタグループが今後どのような成長を見せてくれるのか、注目が集まっています。

（出所）Tata Group ホームページ